

2 課題研究交流会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の課題研究の質を向上させ、意欲や論理的に考える力を高める。

(2) 研究開発の経緯

多くの科学コンテストは、研究成果が評価される場になっており、研究で生じた問題点や疑問について質問ができる場にはなっていない。本交流会は、生徒が自分の研究概要を簡単に説明した上で、研究上の疑問や問題点について相談ができる機会として設定している。今年度はコロナウィルス感染拡大防止の観点で、Web開催とした。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

課題研究についてのポスター発表と研究者によるアドバイス

イ 連携先 名古屋大学理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科

ウ 参加者 高等学校 生徒169名、教員19名

生徒：岡崎4名、時習館15名、半田40名、明和3名、一宮51名、向陽39名
名大附 中学生2名、名城大附3名、三重県立上野5名、静岡県立浜松工業3名、静岡市立4名

教員：岡崎2名、岡崎西1名、時習館1名、半田1名、明和1名、向陽8名、名大附1名、名城大附1名、三重県立上野1名、静岡県立浜松工業1名、静岡市立1名

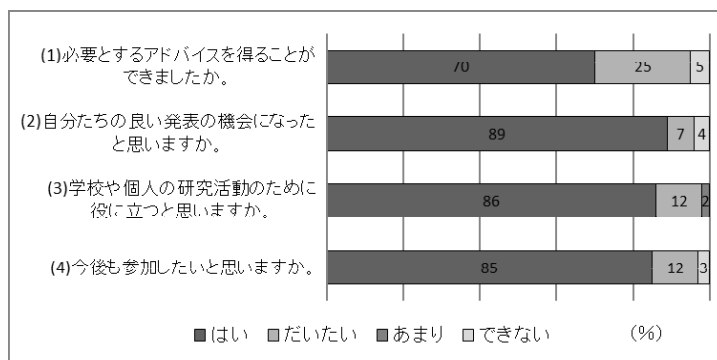
エ 日時場所 令和2年9月17日(木)～10月30日(金)

オ 実施内容

本校ホームページから研究発表動画を視聴し、大学の研究者や大学院生から助言・指導を文書または動画で頂いた。また、参加生徒や参加教員が各校の提出動画を視聴できるようにした。

カ 検証（成果と反省）

アンケートを見ると例年以上に肯定的な意見が多く上がっていた。講師からの助言・指導を文章や動画でもらうことができることから、後から見直すことができる点や顧問も助言指導を確認することも有効であった。また、今年度は近隣の県のSSH校にも案内することで参加校を増やすことができた。Web開催にすることで、遠方の学校も参加することができることも利点である。今後もWebを活用することで広く参加者を募っていきたい。



参加生徒の感想から（一部抜粋）

- ・指導教員の方のメールアドレスまで書いてくださり、質問などをしてもいいと言ってくくださった方もおり、とても助かります。ありがとうございます。
- ・自分たちが研究したことに関する質問をいただき、さらに深掘り出来ることが多くあるなと気づくことができました。他校の研究では、自分が気づかなかった視点から疑問を持っていて新鮮でした。
- ・従来の発表だと色々な方々から意見を貰えるところが良い経験になるが、今回のオンライン上では自分の発表した内容について詳しく意見が貰え、それがデータとして残るところが良いなと思った。